

「高島いちじく」の産地育成に向けた普及活動

高島農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

高島地域では平成 20 年より生産や需要が見込める果樹として「いちじく」の推進を図り、5 年目となる現在、生産農家が 35 名、面積 240a となりました。出荷量は年々増加していますが、栽植時期が生産者やほ場ごとに異なり樹冠に応じた栽培技術が支援が求められています。また、大部分が露地栽培のため熟期分散が難しく、降雨や風による品質低下が発生しやすい等の課題があります。さらに、規格外果実の利用拡大を図るため、加工への支援が求められています。

【普及活動の内容】

(1) 安定生産に向けた研修会の開催

地域別・技術習熟度別に研修会を開催し、それぞれに応じた情報を提供しました。

(2) 熟期の調整、品質向上に向けた新技術の実践支援

いちじくの早期出荷や収穫終期の出荷量確保に向けた熟期調整対策の実践に向け、実施時期や手法を記したカラーチャートを作成し適正な処理を促しました。

また、品質低下の原因となる降雨対策として「簡易雨よけ傘」を導入し、効果の実証を行いました

(3) 規格外果実の利用拡大

今年度より JA 新旭町が規格外果実を利用したジャム加工を開始されたため、技術情報等を提供し加工品の製造を支援しました。



高島いちじく集合研修会



完成したいちじく加工品

【普及活動の成果】

熟期の調整対策は半数の生産者が実践され効果を実感されるとともに、「雨よけ傘」についてはアンケート調査で取組農家の 9 割が被害果の軽減効果を評価し、また全員の方から秀品率が向上したとの回答を得ました。

『高島いちじく』は、24 年産で生産量 20 トンと県内最大の産地となり、地域特産物として定着してきました。産地では幼木も多く、今後より一層の生産量の増加が期待されます。

